

# 「くまの木」ヒトとムシの楽園プロジェクト

会報ムシプロ8号

2017年10月



アサギマダラ

## 目次

- 1. 9月活動報告 . . . . . 2
- 2. ムシプロだより . . . . . 5
- 3. 自然の楽しみ方（秋） . . . . . 6
- 4. 事務局より . . . . . 7
- 今月の表紙 . . . . . 7

## 1. 9月9日（土）、10日（日）の活動報告

2017年第四回活動を行いました。スタッフ4人を含めて11人が参加しました。

活動内容は、ビオトープの雑草取りとバタフライガーデンの整備（菜の花とレンゲの種まき）、トンボ・鳴くムシ・ビオトープの生き物観察と盛りだくさんでした。日中は気温が上がり夏を思わせるような気候でしたが、赤く色づいた赤とんぼとムシの音に「小さい秋」を見つけました。

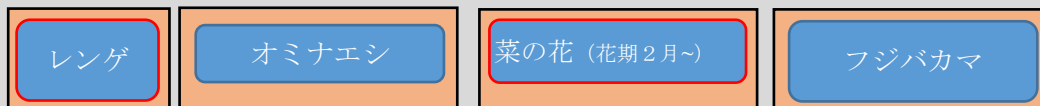
ビオトープでは、タガメ・コオイムシ・タイコウチ・ミズカマキリ・クロゲンゴロウ・アカハライモリ・ドジョウなどを観察しました。自分が採集した自慢の生き物を手に記念撮影後、ビオトープに返しました。

### ■ バタフライガーデン（花壇）の整備

花壇の雑草をきれいに取り、その後2月～5月に花が咲く「菜の花」と「レンゲ」の種を蒔きました。菜の花・レンゲは、花を楽しめるだけでなく花後、緑肥として花壇の土壌改善にも有効です。

来年の春が、とても楽しみです。11月の活動の時にどれくらい成長しているか観察しましょう。

#### 校舎



### ■ 鳴くムシの観察

9日の夕食後、くまの木周辺で鳴くムシの観察を行いました。涼しくなった夜に、エンマコオロギ、オカメコオロギ、ツヅレサセコオロギ、クサヒバリなどのムシの音に耳を傾けました。

スタッフの伊村さんの解かりやすくユーモアの溢れた解説がさらに鳴くムシの面白さ、楽しさを高めます。



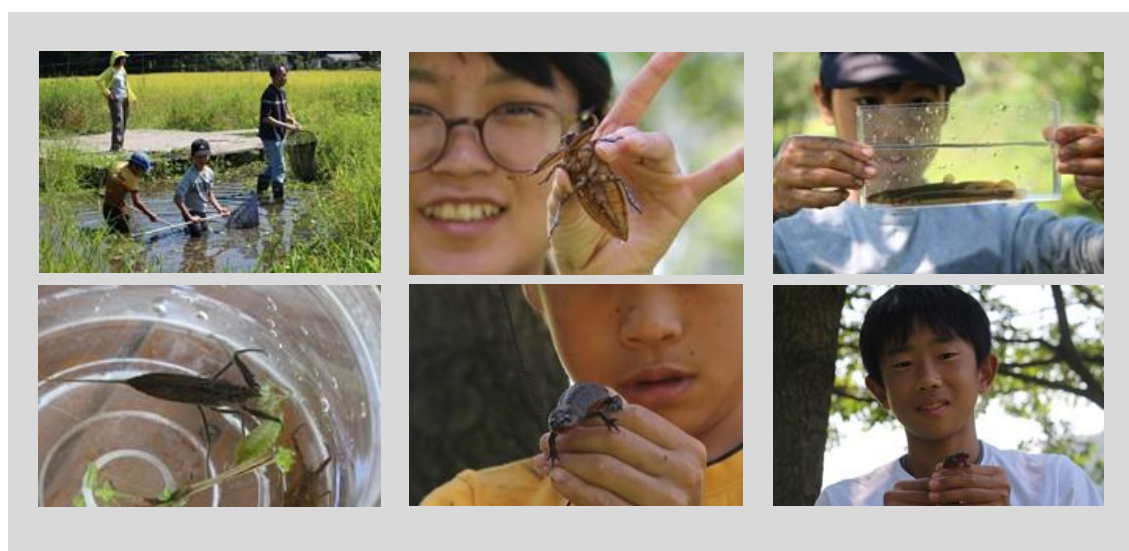
## ■ トンボの観察

くまの木周辺で赤トンボを中心に観察をしました。各自、捕虫網を持ってフィールドを駆けまわりました。一口に赤とんぼと呼んでいますがそれぞれに個性があります。また、大物のオニヤンマも採集しました。採集したトンボを手にとって、目の輝きと体の色を楽しみ、さらに手に伝わる翅の振動でトンボの躍動を感じました。



## ■ ビオトープの生き物観察

秋は、新成虫が出現する時期と田んぼの水が抜かれたことで水棲昆虫は水のある所に集結する時期が重なるためビオトープでの水辺の生き物観察に適した時期です。ビオトープには、タガメ・コオイムシ・タイコウチ・ミズカマキリ・クロゲンゴロウなどが集結していました。7月の活動の時に幼虫だったタガメが立派な成虫になっている姿を見て大いに盛り上がりました。また、タイコウチは、ヤゴを捕食する様子も見せてくれました。



## ■ 活動での出来事

### ✓ クワガタの誤算

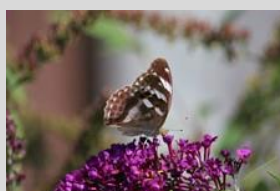
活動場所の近くにカブトムシ、クワガタムシが集まるヤナギの木があり、夏は沢山人（子供たち）が訪れます。

ノコギリクワガタは、9月になり人が訪れなくなったので呑気に昼間から樹液に舌鼓を打っていました。そこへ、クワガタ大好きなムシプロ少年隊が奇襲攻撃をかけてきました。不意を突かれたクワガタムシは、なすすべもなく少年隊の手の中に納まりました。クワガタムシから「人間の子供たちから逃げきったと思ったのにい〜」と嘆きが聞こえてきます。季節外れのクワガタムシ採集にムシプロ少年隊は、大いに盛り上がりました。



### ✓ バタフライガーデンの様子

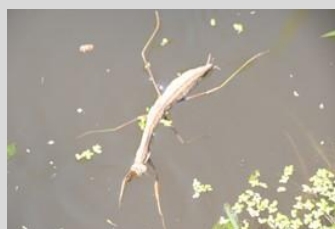
ブッドレアにヒョウモンチョウの仲間、クロアゲハ、カラスアゲハ、ホウジャク（蜂雀）の仲間が訪れていました。



### ✓ ダイコクコガネ、ハリガネムシに寄生されたカマキリなど



ダイコクコガネ



ハリガネムシ

活動の画像は、以下のアドレスをクリックしてパスワードを入力してください。

<https://opa.cig2.imagegateway.net/s/cp/EwirW4CVdEn>

パスワードは、2017090910 です。

## 2. ムシプロだより

### 小林 宏一郎さん、寛明さんの近況

私の住む千葉市は海が近いので、息子が小さい時から海岸に貝殻を拾いに行ったりしていましたが、最近では西伊豆の海に生き物の観察に行ったりもします。西伊豆に行き始めたきっかけはNHKの「ダーウィンが来た！～生きもの新伝説～」で放映された大瀬海岸です。ここは透明度が非常に高く、海水浴中に魚が泳いでいるのが見えると紹介されていたので「行きたい！」という息子の一言で、その夏の旅行先が決まりました（笑）。テレビで紹介されているとおり、海の中を泳ぐ小魚がいっぱい見えます。魚を集めるために、魚肉ソーセージを持って行くのがお勧めです。

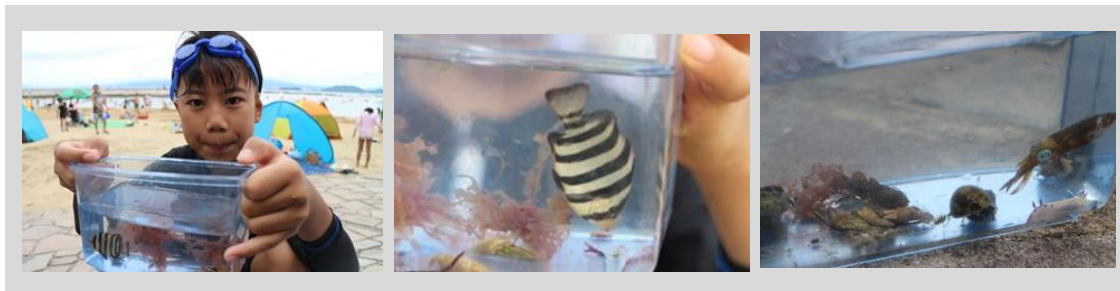


ただ、残念ながら大瀬海岸には磯場が無いため、今年は磯場がある近くの別の海岸で生き物観察を行いました。

磯場では潮が満ちているときは大きめの魚、イシダイやメジナ、アジなどがたくさん見えるのですが捕まえることはできませんでした。しかし、干潮時に現れるタイドプールに残されたカニやヤドカリ、アメフラシだけでなくイシダイの幼魚やハゼなどの魚も小さな網で捕まえることができました。

また、海岸で泳いでいると半透明の生き物が海の中を漂っています・・・よ〜く見るとイカの子供・・・二人で追いかけてやっとのことで1匹捕まえることが出来ました。捕まえてみると、小さいながらスミを吐いて逃げようとします。イカの吐くスミは書道の墨のようにサラサラだと思っておりましたが、実際には「ヌルっとした“スライム”のようだった」（息子の感想）とのこと。水槽の中でもイカが体の色を変えるのは、周りの他の生き物の色に合わせてなのか・・・息子は疑問に思って考え込んでいました。やはり、本などでの知識より実際の体験で得ることの方が多いと感じました。

(写真・文 小林 宏一郎)



### 3. 自然の楽しみ方（秋）

#### ● 草むらの獵師カマキリ

カマキリは、ムシに興味がない人でも、肉食でメスは、交尾後にオスを食べてしまうということを知っているほど身近な存在だ。また、カマ（前足）をそろえて構える様子から「拝みムシ」と呼ばれたり、「カマキリ爺さんの歌」があるなど親しまれている。

小学生の頃、遠足、芋ほり、落花生狩りなどの行事で郊外にいくと芋、落花生を掘らずにひたすらカマキリを追いかけていた。帰りのバスの中では同級生が、袋に一杯の芋を抱えていたが私はカマキリとエサにするイナゴ・バッタ類を抱えていた。（笑）

カマキリを飼育してとても興味深いことがわかった。

##### ・とても綺麗好きである。

暇さえあれば、目、ヒゲ（触角）、足を掃除する。物陰に潜んで獲物を狙う獵師としては道具の手入れは欠かせないのである。

##### ・よく水を飲む。

飼育ケースにキリを吹くと、ケースや枝に着いた水滴を次から次へと飲んだ。

これ以後、ケース内に湿らせた綿やキュウリを入れることにした。肉ばかり食べているからノドが渇くのもかもしれない？

##### ・同じエサを続けていると食欲不振になる。

同じエサを続けると興味を示して食べ始めるが一口二口食べて放してしまう。栄養のバランスを考えているのかもしれない？

カマキリと出会ったらよく観察してほしい。

また、時間があれば飼育に挑戦してほしい。

きっと、ケースの中で見せてくれる生態に新しい発見や驚きがあるはずだ。オスとメスを採集して交尾の時間を計ったり、産卵の様子をみても面白い。十分観察したら、元の居た場所に「ありがとう」と言って戻してあげよう。

（写真・文 西野 孝法）



オオカマキリ（オス）



オオカマキリ（メス）



オオカマキリの交尾

## 4. 事務局より

会報の「表紙」と「自然の愉しみ方」で紹介した画像をイメージゲートウェイに登録しています。Wordに貼りつけてある画像より綺麗です、ご覧ください。アドレスは以下のとおりです。パスワードは、必要ありません。

<https://opa.cig2.imagegateway.net/s/cp/DMCYuTBGLSE>

画像はダウンロードできます。

2017年10月1日発行

発行： くまの木ヒトとムシの楽園プロジェクト

編集責任者： 西野 孝法

〒262-0026 千葉県 千葉市 花見川区瑞穂3-3-26

TEL: 090-9327-5606

Eメール：[harukan@ac.auone-net.jp](mailto:harukan@ac.auone-net.jp)

今月の表紙

アサギマダラ



(写真 遠藤 正久)



(写真 小野 瑞希)

アサギマダラは、マダラチョウの仲間ではテハチョウ科に属している。マダラチョウの仲間では本州で見られるのは本種のみ。翅が、緑がかつたうすい藍色（あさぎ色）をしていることが名前の由来だ。翅の色とゆったり飛ぶ姿に品の良さを感じる。初めて見た時「一目惚れ」してしまった。

くまの木の花壇にアサギマダラが好んで訪れる「フジバカマ」を植えた。いつしかアサギマダラが訪れてくれることを夢みている。(文 西野 孝法)

